

地質 49

錦江湾の深〜い話

地質担当 多久島 徹

不思議な錦江湾

錦江湾は私たちにとって身近で、親しみのある海ですが、あまり知られていないことも多いようです。もっと錦江湾のことを知っていただくと、その不思議さや魅力をますます感じていただけたと思います。

深〜い話①「錦江湾の名前」

私たちは鹿児島県民は普通に「錦江湾」と呼んでいますが、正式な名前ではありません。正式には「鹿児島湾」なのです。県外の人々は錦江湾と呼ばれていることを不思議に思っているかもしれませんね。

ちなみに、「錦江湾」の名前の由来は諸説ありますので、調べてみてはいかがでしょうか。

深〜い話②「錦江湾はほんとに深〜い」

日頃は何気なく見ている錦江湾ですが、実は世界でも珍しい湾なのです。南北約 80km、東西約 20km の細長い内湾で、平均水深は 117m、最も深いところは 237m もあります。

一般に 200m よりも深いところは深海と呼ばれます。錦江湾は、内湾でありながら深海を持つ珍しい海なのです。ちなみに、錦江湾とほぼ同じ面積の東京湾（狭義）の最深部は 70m ほどです。

また、錦江湾の海域環境は深海、岩礁域、藻場、サンゴ群集、干潟などがあり、日本で見られる海域環境の大部分が整っているといわれています。このような多様な環境が多く、生物の営みを支え、豊かな海となっているのです。

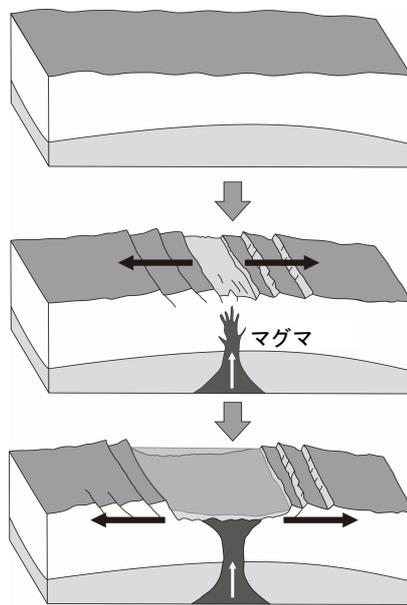


錦江湾
(灰色の部分は 200m より深い海域)

深〜い話③「錦江湾は大地の裂け目」

錦江湾が深いのは、大地が開きながら陥没した地形だからです。約 70 万年前から大地が割れて落ち込み、海が入ってきました。このほぼ南北に平行に延びる陥没地形を「鹿児島地溝」といいます。鹿児島地溝内は、火山活動が活発で火山の大規模噴火によってできたくぼ地（カルデラ）が 4 つもあり、霧島や桜島などの活火山もすべてこの中にあります。

錦江湾はマグマが噴出する南北に延びる大地の裂け目の一部だったのです。



錦江湾の成り立ち(イメージ図)

深〜い話④「錦江湾奥部は巨大なカルデラ」

湾奥部は大きなくぼ地になっており、水深 200m を越える場所もあるカルデラです。2 万 9000 年前の大噴火でできました。このくぼ地に海水が進入し、湾奥部ができました。この噴火では、とてつもない量の火山灰や軽石などが噴出され、私たちがよく知っているシラス台地ができたのです。



カルデラ壁と吉野台地